

愛知大学教職課程センターの開設に寄せて

愛知大学学長・理事長 佐藤元彦

愛知大学では、小中高の教員養成に関連した取り組みに一層力を入れるために、2010年から教職課程センター設置に向けた準備を進めてきましたが、2012年4月、ようやくその開設に至りました。従来の教職課程委員会を廃止し、教職課程担当の教員や事務スタッフの補充により教職課程センターを開設した最大の背景は、教員として活躍し、高い社会的評価を得てきた卒業生が多数に及んでいる一方で、教員養成やそれを通じた社会貢献の近年の実績が必ずしも芳しくないという点にあります。

ご承知の通り、本学は、地域社会への貢献を第一の設立趣旨として1946年に創立されました。地域社会への貢献には様々な形があり得ますが、社会で評価される人材の育成が一つの重要な柱であることは誰しもが認めるどころかと考えます。本学の卒業生については、地方行政、法曹、会計、金融、メーカーといった分野での活躍が目立つところですが、小中高の教員として活躍してきた卒業生もこれらの分野に劣らず多く、いわゆる開放制の下で社会に誇るべき教員養成の実績をおさめてきた、と自負しているところです。実際、私自身も、同窓会の会合に出席する中で、愛知県や近隣の三重県、岐阜県にとどまらず、全国の至る地域で本学卒業生が教員として活躍されてきた実績を目の当たりにしました。公立学校のみならず私立学校においても、また、中学校や高等学校だけでなく小学校においても、愛知大学卒業の教員の活躍には輝かしいものがあります。なかでも印象深いのは、小学校教員の免許状を発給できなかったかつての状況において、卒業後にまずは中学校教員となり、その後通信教育によって小学校教員の免許状を取得して小学校の教員として活躍された卒業生が少なくないという点です。同窓会の会合では、小学校長として教員生活を終えられた方にもたびたびお会いしました。

センター設置は、このような実績を背景にしつつ”愛知大学らしさ”をより前面に出していくための取り組みですが、「養成」については、在学生だけを対象としたこれまでの取り組みから、既卒者への対応も含めたものへと変化しました。その中では、また、「採用」へのこだわりから、これまでは手薄であった採用試験直前指導、講師登録などもセンターが率先して担うこととしました。さらには、現職教員向けの「研修」や地域の学校・教育委員会等との「連携」にも、これまで以上に積極的に取り組んでいくこととしています。「研修」については、この間高い評価をいただいている教員免許状更新講習にとどまらず、教員としての資質を持続的にレベルアップさせるための多様な取り組みが予定されています。また、「連携」については、豊田市教育委員会、愛知県東栄町「サマースクール」等との連携の実績を踏まえつつ、地域的にも内容的にも拡充していくことが検討されています。このような「養成」「採用」「研修」「連携」のセンター活動の4本柱を通じて、“愛知大学らしさ”を前面に出した社会貢献が強化されていくものと、大いに期待しているところです。

最後になりますが、センター設立に責任者としてご尽力いただき、併せて初代センター所長としてこの間重責を全うされている渡邊正教授（文学部）に、まずは心から御礼申し上げます。渡邊教授は、先に述べたセンター設立の背景に十分な理解を示され、スピード感をもって設立準備を進められました。また、いちいちお名前を挙げませんが、センターの設立準備と開設後の運営に心温まるご理解、ご協力をいただいていたその他の教職員の皆様にも、この場をお借りして謹んで深謝申し上げます。